

第18回

The Japanese Association of Smoking Control Science

日本禁煙科学会学術総会 in和歌山

「多職種、多機関連携による禁煙社会の実現」



会期 2023年9月30日(土)～10月1日(日)

会場 和歌山県民文化会館
和歌山市小松原通り一丁目1番地 和歌山県庁正門前

会長 中川 利彦 たばこ問題を考える会・和歌山 事務局長 / 弁護士

後援 和歌山県、和歌山市、和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会、
和歌山県医師会、一般社団法人和歌山県薬剤師会、
一般社団法人和歌山県歯科医師会、公益社団法人和歌山県看護協会

主催 日本禁煙科学会

第 18 回

日本禁煙科学会学術総会 in 和歌山

テーマ：多職種、多機関連携による禁煙社会の実現

プログラム・抄録集

会 期： 2023 年 9 月 30 日（土）・10 月 1 日（日）

会 場： ハイブリッド開催

和歌山県民文化会館(和歌山市小松原通り一丁目 1 番地 和歌山県庁正門前)

会 長： 中川 利彦（たばこ問題を考える会・和歌山 事務局長 / 弁護士）

主 催： 日本禁煙科学会

後 援： 和歌山県、和歌山市、和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会、
和歌山県医師会、一般社団法人和歌山県薬剤師会、
一般社団法人和歌山県歯科医師会、公益社団法人和歌山県看護協会

事務局： 第 18 回日本禁煙科学会学術総会委員会

大阪商業大学 東山明子研究室

〒577-8505 東大阪市御厨栄町 4 - 1 - 1 0

TEL： 06-6785-6205

E-Mail：jasc18@jops1.daishodai.ac.jp

第18回 日本禁煙科学会学術総会 in 和歌山 プログラム目次

会長挨拶.....	1
日本禁煙科学会 学会賞	2
日本禁煙科学会 禁煙教育推進賞（畑中孝之賞）	2
ご案内：	
会場アクセス・案内図	3
学術総会ご参加の皆さまへのご案内.....	5
座長・発表者へのご案内	7
日程	8
プログラム：	
1日目 9月30日（土）	11
2日目 10月1日（日）	14
抄録：	
会長講演	17
特別講演	18
厚生労働省講演	19
教育講演	20
和歌山セッション	21
シンポジウム1・2・3	22
分科会	27
一般演題1～7.....	33
日本禁煙科学会 役員	41
日本禁煙科学会 会則	42
協賛団体・企業/謝辞	48

会長挨拶



第 18 回日本禁煙科学会学術総会 in 和歌山

会長 中川 利彦

(たばこ問題を考える会・和歌山 事務局長 / 弁護士)

第 18 回日本禁煙科学会学術総会を、2023 年 9 月 30 日（土）、10 月 1 日（日）の 2 日間にわたって、和歌山県民文化会館で開催させて頂くことになりました。

第 16 回総会と第 17 回総会は残念ながら完全 WEB 形式での開催でしたが、本総会は、静岡県立大学で実施された第 15 回大会にならって、ハイブリッド形式で実施する予定です。

さて、本学術総会のテーマは「多職種、多機関連携による禁煙社会の実現」とさせていただきます。

和歌山県は、2002 年 4 月、日本ではじめて都道府県として公立学校全部の敷地内禁煙を実現したことで有名ですが、この画期的な施策が和歌山県で実現し定着したのは、医療関係者、県教育委員会・教職員など教育関係者、県（行政機関）、そして市民団体など多くの関係機関と関係者の連携によるものです。日本禁煙科学会によって 2021 年創設された畑中孝之賞（禁煙教育推進賞）にお名前が冠されている畑中さんは、たばこによる喉頭がんで声帯を切除した経験から、たばこ問題を考える会・和歌山の代表世話人として、その半生を禁煙教育に捧げられました。

このように和歌山で、そして全国で実践されてきた多職種・多機関連携による禁煙推進活動について振り返りつつ、全国の皆様方の今後の活動につながる学術総会になればと願っています。

和歌山は、海の幸・山の幸が豊富で、和歌山ラーメンも有名です。白浜ではパンダが皆様を歓待してくれるでしょう。

気候も良いこの機会に、是非ご家族連れで和歌山までお越しください。

日本禁煙科学会 学会賞



佐原 康之

(元和歌山県健康対策課長、前厚生労働省健康局長)

和歌山県健康対策課長として、初めての都道府県単位での学校敷地内禁煙を県教育委員会に働きかけ、日本の学校禁煙化をリードした。

【略歴】

平成元年金沢大学医学部卒。神奈川県立こども医療センター研修医を経て、平成3年厚生省入省。

入省後、省内各局や、WHO 本部（NCD 等担当）、和歌山県庁に勤務。令和3年9月より厚労省健康局長。令和5年7月退官。

日本禁煙科学会 禁煙教育推進賞（畑中孝之賞）

奥田 恭久

(和歌山県立和歌山工業高等学校 教諭)

<受賞理由>

現職の高校教諭として、2005年から高校生向けに「週刊タバコの正体」を毎週火曜日発行し、2023年4月には750号を超えた。2011年からは日本禁煙科学会のホームページにも掲載され、全国の喫煙防止教育の普及と質の向上に貢献している。

会場アクセス・案内図

和歌山県民文化会館

〒640-8269

和歌山市小松原通一丁目1番地

TEL：073-436-1331/ FAX：073-436-1335

<会場アクセス>

◇和歌山市までのアクセス

- 南海電鉄 南海線：「和歌山市駅」下車
- JR 阪和線（きのくに線）：「和歌山駅」下車
- 関西国際空港より
 - ・南海電鉄：「泉佐野駅」乗換、南海線「和歌山市駅」下車
 - ・JR：「日根野駅」乗換、阪和線「和歌山駅」下車
 - ・空港リムジンバス：「JR和歌山駅<東口着>」下車



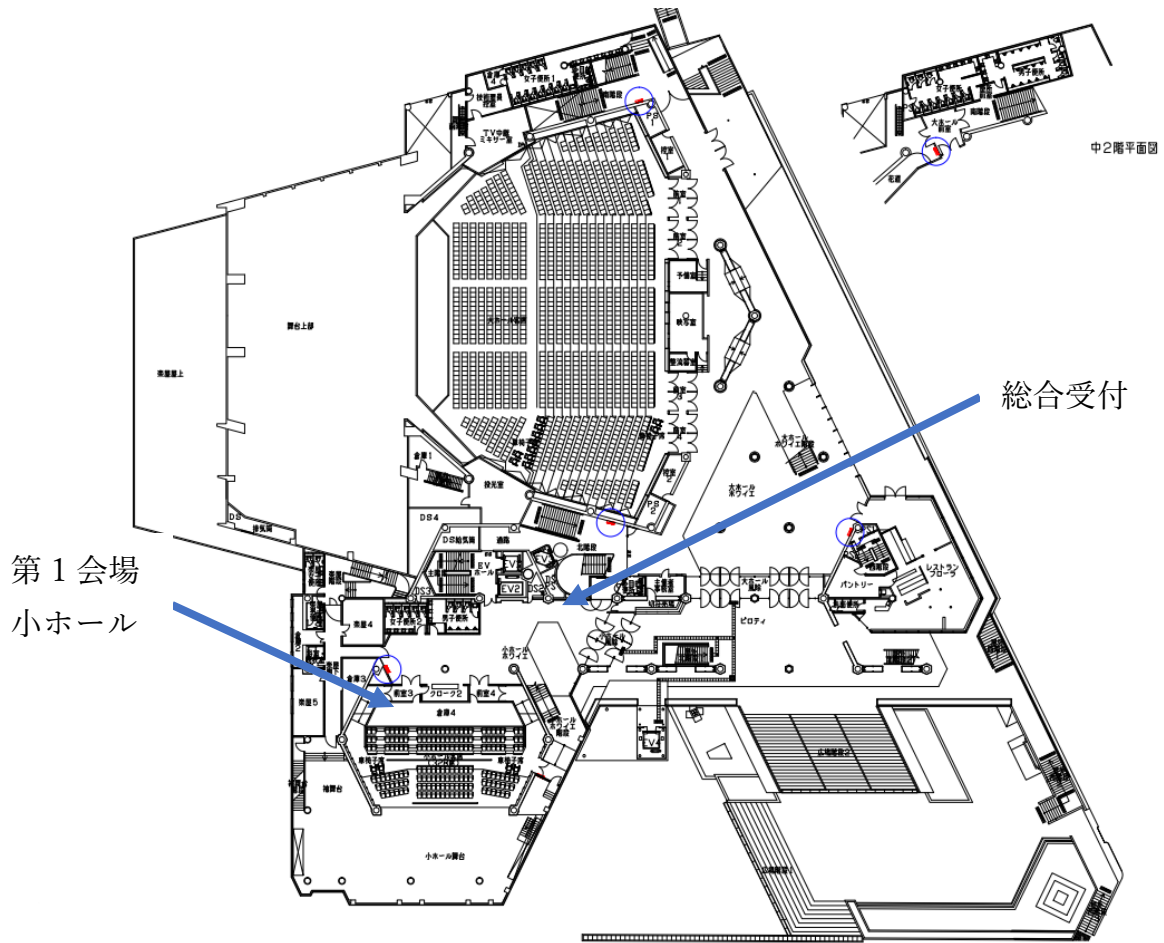
◇和歌山県民文化会館へのアクセス

- ・南海電鉄「和歌山市駅」より
 - 徒歩 約20分/タクシー 約5分/
 - バス 約10分（2番のりば）「県庁前」バス停下車（バス停より約300m・徒歩約4分）
- ・JR「和歌山駅」より
 - 徒歩 約35分/タクシー 約10分
 - バス 約10分（2番のりば）「県庁前」バス停下車（バス停より約300m・徒歩約4分）
- ・阪和自動車道「和歌山I・C」より
 - お車で約15分・約5km
 - （会館南側 有料立体駐車場完備）

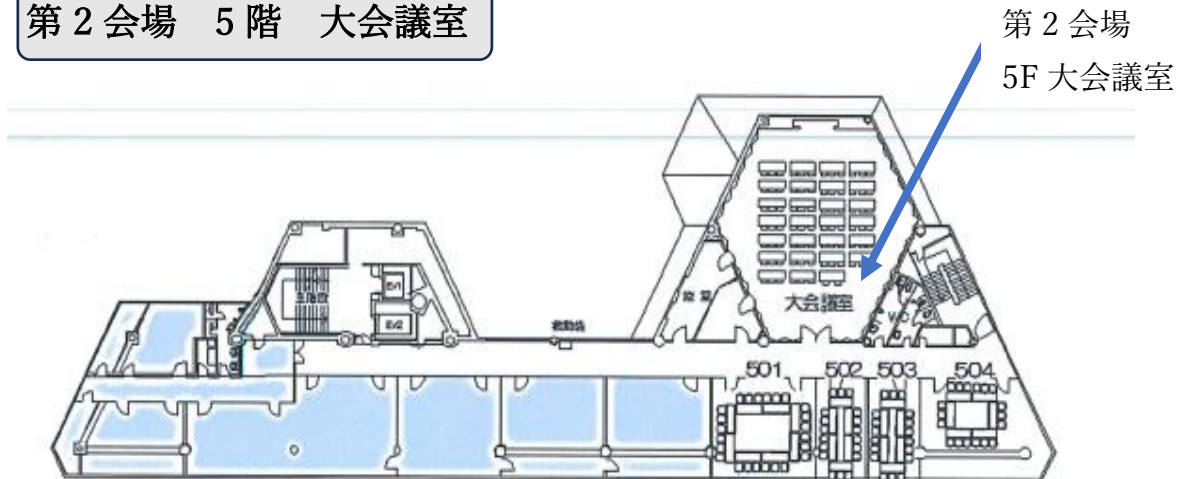


<会場案内図>

第1会場 2階 小ホール



第2会場 5階 大会議室



学術総会ご参加の皆さまへのご案内

学会会場

和歌山県民文化会館(和歌山市小松原通り一丁目1番地 和歌山県庁正門前)

第1会場 2F 小ホール

第2会場 5F 大会議室

総合受付

場所：和歌山県民文化会館 2F 小ホール

時間：2023年9月30日(土) 10:30～17:00

10月1日(日) 9:00～16:30

事前参加登録済の方

総合受付にて参加証をお受け取りください。

当日、会場参加の方

総合受付にて参加費を納め、参加証をお受け取りください。

※参加証に所属・氏名を記載の上、会場内では必ずご着用ください。

Web参加の方

第18回日本禁煙科学会学術総会ホームページのマイページにて、当日参加するZOOMのURLをご確認ください。

参加費、抄録集販売等

(1) 参加費

早期参加登録 2023年8月31日(木)まで	会員	8,000円
	非会員	10,000円
	学生(大学院生を除く) 当日受付時に学生証の提示	無料
通常参加登録 2023年9月22日(金)まで ※9月22日以降、当日会場受付で参加登録	会員	10,000円
	非会員	12,000円
	学生(大学院生を除く) 当日受付時に学生証の提示	無料

※上記期日までにカード決済が済まされていない場合、参加登録となりませんのでご注意ください。

なお、参加費お支払い後のキャンセルはできません。

(2) プログラム抄録集販売

学会終了まで	一冊	2,000 円
--------	----	---------

・参加費に抄録集代は含まれません。ご希望の方は、受付で 2,000 円/冊で販売いたします。

写真撮影、ビデオ撮影および録音

講演中、会場内・遠隔配信問わず、写真・動画の撮影、録音は固くお断りいたします。

(但し、スタッフが開催記録のため、会場内の様子を撮影する場合があります)

クローク： 学術総会会期期間中はクロークを設けております。17:00 を超えての荷物のお預かりはしていませんので、学術総会終了後、忘れずに手荷物をお受け取り下さい。

宿泊： 宿泊施設は、各自でお手配頂くようお願いいたします。

日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度：

<現地参加の場合>

QR コード受付時間	入場確認時間	退場確認時間
9月30日(土) 2単位	10:30~10:55	17:00~17:30
10月1日(日) 3単位	9:00~9:55	16:30~16:55

PECS に登録した際に交付された本人確認票 (QR コード) を必ずご持参ください。

入退場の際に QR コード読取機にかざしていただきます。

QR コードは紙面印刷物が推奨されております。あらかじめ印刷の上ご持参ください。

受付終了間近は混雑が予想されますので、時間に余裕を持って受付をお願いします。

<ウェブ参加の場合>

	視聴確認時間
9月30日(土) 2単位	11:00~17:00
10月1日(日) 3単位	10:00~16:30

視聴ログ記録で単位が認定されます。遅刻や途中退場 (通信切断等)、

いかなる理由であっても、単位が付与されませんので十分ご注意ください。

※学術総会終了後、受講者データを日本薬剤師研修センターに報告し、報告後はホームページにて、「薬剤師研修センターに受講者データを提出した」旨のお知らせをいたします。

日本禁煙科学会禁煙支援士認定：受講証明

日本禁煙科学会禁煙支援士認定に必要な受講証明書 (学術集会 2 日間で 3 点) は事前申し込みされた方には学術総会終了後、メールでお送りします。

座長・演者の先生方へのご案内

演者の先生方：

<学会会場での講演について>

- 1.事務局が用意したノート PC を用いての発表になります。スライド・OHP の使用は出来ませんのでご注意ください。講演会場にはプロジェクター1 台、ノート PC (Windows 11、PowerPoint 2021)、マウス・キーボード、マイクを準備致します。
- 2.利益相反については、演者所属施設の規定に従って申告してください。形式は自由です。
- 3.発表データの受付について
 - (1)発表データの横縦比は「4：3」または「16：9」で作成してください。
 - (2)発表データは、USB フラッシュメモリ等のメディアに保存して持参ください。
 - (3)事務局では PowerPoint (Windows のみ) を対応します。事務局が用意したノート PC には遠隔配信ソフトが予め設定されていますので、講演前に演者側で設定する必要はありません。
 - (4) 操作方法等ご不明な点がございましたら スタッフにお気軽にお問い合わせください。
- 4.ご発表開始時間の 15 分前までに会場内 (左前方) の次演者席にお着きください。
- 5.発表時間の厳守をお願いいたします。
- 6.講演時のパソコン操作は、発表者ご自身で行ってください。
- 7.万一のトラブルに備えて、バックアップ用発表ファイルを別途ご用意ください。

<遠隔での講演について>

発表予定の 1 週間前をめぐりに、事務局より発表用 ZOOM URL をお送りします。
当日は、ZOOM 管理者および座長の指示に従い発表をお願いします。
※現地会場でオンライン口演の発表をすることはできません。

座長の先生方：

- ・担当時刻の 15 分前までに会場内 (右前方) の次座長席にお着きください。
- ・各演題の進行は座長の先生に一任します。
- ・各演者の持ち時間には、準備、口演、質疑応答の時間が含まれております。
時間厳守で進行できますよう、ご協力お願い致します。

日程 【第1日目】 2023年9月30日（土）

	第1会場 小ホール	第2会場 大会議室
9		
10		
	10時30分から参加受付	
11	<p>開会式 中川利彦 高橋裕子</p> <p>会長講演 「多職種・多機関連携による禁煙社会の実現」 座長：眞崎義憲（九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター） 演者：中川利彦（たばこ問題を考える会・和歌山 事務局長/ 弁護士）</p>	<p>健康教育分科会 「実践セミナー：ウェルビーイング思考による禁煙支援」 座長・演者：須賀英道（龍谷大学短期大学部）</p>
12		
13	<p>特別講演 「アドベンチャーワールドの魅力 ～未来につながるジャイアントパンダの子育て～」 座長：初山昌平（和歌山県歯科医師会、和歌山県介護支援専門員協会会長） 演者：中谷有伽（アドベンチャーワールド）</p>	<p>一般演題1、2、3 座長：山本康久（西和歌山病院）</p> <p>一般演題4、5、6 座長：野田隆（のだ小児科医院）</p>
14	<p>シンポジウム1（職域タバコ対策分科会） 「タバコとレセプトに関する分析状況報告（2023年度）」 座長：洲上武彦（コニカミノルタ健康保険組合） 演者：中島博（シーイーシー健康保険組合） 小川佳政（ファイザー健康保険組合） 宮崎かおり（TOTO健康保険組合）</p>	<p>禁煙マラソン・健康情報の見せ方伝え方分科会 「禁煙継続のポイント」 座長：平松新 演者：禁煙マラソン卒業生のみなさま</p>
15	<p>厚生労働省講演 「厚生労働省がすすめる禁煙対策」 座長：中川利彦（たばこ問題を考える会・和歌山 事務局長/ 弁護士） 演者：佐原康之（前厚生労働省健康局長）</p>	
16	<p>和歌山セッション 「多職種・多機関連携による和歌山の禁煙推進」 座長：佐本明（元和歌山県健康対策課健康づくり推進班長） 演者：中川利彦（たばこ問題を考える会・和歌山事務局長） 池上達義（日赤和歌山医療センター） 西畑昌治（和歌山禁煙教育ボランティアの会会長） 奥田恭久（和歌山工業高等学校教諭） 佐原康之（元和歌山県健康対策課長、前厚生労働省健康局長）</p>	
	<p>学会賞 禁煙教育推進賞授与式 座長：高橋裕子</p>	

日程 【第2日目】 2023年10月1日（日）

	第1会場 小ホール	第2会場 大会議室
9	9時から参加受付	
		会員総会
10	<p style="text-align: center;">シンポジウム2（歯科分科会） 「歯科領域における禁煙支援の重要性」 座長：王宝禮（大阪歯科大学） 演者：王宝禮（大阪歯科大学） 玉置敬一（玉置歯科医院） 初山昌平（初山歯科医院） 岩橋秀記（岩崎歯科医院）</p>	一般演題7 座長：佐本明（元和歌山県健康対策課健康づくり推進班長）
11	<p style="text-align: center;">シンポジウム3（禁煙治療分科会） 「困難を乗り越えて再認識：禁煙治療の重要性」 座長：長谷川浩二（国立病院機構京都医療センター） 演者：館野博喜（さいたま市立病院呼吸器内科） 森本達也（静岡県立大学・静岡県立総合病院） 小見山麻紀（国立病院機構 京都医療センター） 高橋裕子（京都大学大学院医学研究科社会健康医学）</p>	<p style="text-align: center;">教育・小児科分科会 「無煙世代を創り出すためにできること」 座長・演者：野田隆（のた小児科医院） 牟田広実（いづかこども診療所）</p> <p style="text-align: center;">※オンラインはありません※</p>
12		
13	<p style="text-align: center;">教育講演 「タバコ関連呼吸器疾患－COPDを中心に－」 座長：上田見子（上田内科クリニック） 演者：池上達義（日赤和歌山医療センター）</p>	
14	<p style="text-align: center;">KKE分科会 「KKEに学ぶ禁煙支援の最新知識」 座長：高橋裕子（京都大学大学院医学研究科社会健康医学） 演者：館野博喜（さいたま市立病院 呼吸器内科）</p>	
15	<p style="text-align: center;">薬剤師分科会 「教育現場における（学校）薬剤師の最近の取り組みについて」 座長：笠原大吾（なみき薬局在宅支援チームリーダー） 演者：田口真穂（横浜薬科大学 薬学部臨床薬学科 レギュラトリーサイエンス研究室/実務実習センター） 山下真経（一般社団法人和歌山県薬剤師会 常務理事 禁煙・薬物乱用防止・アンチ・ドーピング委員会委員長）</p>	
16	<p style="text-align: center;">閉会式 優秀演題表彰式 次期会長挨拶</p>	

プログラム

プログラム 1日目 9月30日(土)

第1会場 2F 小ホール

開会式・会長講演

11:00-12:00

挨拶

中川 利彦 (たばこ問題を考える会・和歌山 事務局長 / 弁護士)

高橋 裕子 (京都大学大学院医学研究科社会健康医学)

会長講演

「多職種、多機関連携による禁煙社会の実現」

座長：眞崎 義憲 (九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター)

演者：中川 利彦 (たばこ問題を考える会・和歌山 事務局長 / 弁護士)

特別講演

13:00-14:00

「アドベンチャーワールドの魅力

～未来につながるジャイアントパンダの子育て～」

座長：初山 昌平 (和歌山県歯科医師会、和歌山県介護支援専門員協会会長)

演者：中谷 有伽 (アドベンチャーワールド ジャイアントパンダ飼育スタッフ)

シンポジウム1 (職域タバコ対策分科会)

14:00-15:00

「タバコとレセプトに関する分析状況報告 (2023年度)」

座長：瀧上 武彦 (コニカミノルタ健康保険組合)

演者：中島 博 (シーイーシー健康保険組合)

小川 佳政 (ファイザー健康保険組合)

宮崎 かおり (TOTO健康保険組合)

厚生労働省講演

15:00-15:40

「厚生労働省が進めるたばこ対策」

座長：中川 利彦 (たばこ問題を考える会・和歌山 事務局長 / 弁護士)

演者：佐原 康之 (前厚生労働省健康局長)

和歌山セッション

15：40-16：40

和歌山セッション「多職種・多機関連携による和歌山の禁煙推進」

座長：佐本 明（元和歌山県健康対策課健康づくり推進班長）
演者：中川 利彦（たばこ問題を考える会・和歌山事務局長）
池上 達義（日本赤十字社 和歌山医療センター院長補佐・呼吸器内科部長）
西畑 昌治（和歌山禁煙教育ボランティアの会会長）
奥田 恭久（和歌山工業高等学校教諭）
佐原 康之（元和歌山県健康対策課長、前厚生労働省健康局長）

学会賞・禁煙教育推進賞 授与式

16：40-17：00

座長：高橋 裕子（京都大学大学院医学研究科社会健康医学）

学会賞

佐原 康之（前厚生労働省健康局長）

禁煙教育推進賞（畑中孝之賞）

奥田 恭久（和歌山県立和歌山工業高等学校 教諭）

第2会場 5F 大会議室

健康教育分科会

11:00-12:00

実践セミナー 「ウェルビーイング思考による禁煙支援」

座長・演者：須賀 英道（龍谷大学短期大学部）

一般演題1

13:00-13:30

座長： 山本 康久(西和歌山病院)

1. 「和歌山県那賀地域における喫煙防止教育の有効性に関する検討

～喫煙経験に影響を及ぼす要因について～」

上田 晃子（和歌山禁煙教育ボランティアの会、上田内科クリニック）

2. 「愛着が喫煙行動に影響するのか？大学生の質問紙調査による検討」

入谷 智子（びわこ成蹊スポーツ大学）

3. 「コロナ以後の二十歳のつどい（旧成人式）におけるタバコアンケートの現状

ーネットアンケートの課題と解決策ー」

遠藤 将光（城北病院、禁煙ネット石川）

一般演題2

13:30-14:00

座長： 野田 隆（のだ小児科医院）

4. 「妊婦および育児世代の喫煙に関する保健医療専門職による

支援の実際と課題意識：4名のパイロットインタビューより」

宮崎 有紀子（群馬県立県民健康科学大学看護学部）

5. 「静岡県立総合病院 禁煙外来の取り組み ～開設5年時点での報告～」

川瀬 裕斗（静岡県立大学 大学院薬学研究院 分子病態学講座）

6. 「禁煙の成否に影響を及ぼす要因についての検討～当院の禁煙外来の現状と課題～」

上田 晃子（上田内科クリニック）

禁煙マラソン・健康情報の見せ方伝え方分科会

14:00-15:00

「禁煙継続のポイント」

座長：平松 新

演者：禁煙マラソン卒業生のみなさま

プログラム 2 日目 10 月 1 日 (日)

第 1 会場 2F 小ホール

シンポジウム 2 (歯科分科会)

10:00-11:00

「歯科領域における禁煙支援の重要性」

座長：王 宝禮 (大阪歯科大学)

演者：

- 基調講演「歯科における禁煙支援の重要性」 王 宝禮 (歯科分科会長)
講演(1)「歯科は何をすところ？」 玉置 敬一 (玉置歯科医院)
講演(2)「地域連携・歯科で禁煙！」 初山 昌平 (初山歯科医院)
講演(3)「歯科からの喫煙防止教育」 岩橋 秀記 (岩崎歯科医院)

シンポジウム 3 (禁煙治療分科会)

11:00-12:00

「困難を乗り越えて再認識：禁煙治療の重要性」

座長：長谷川 浩二 (国立病院機構京都医療センター)

演者：

- 1) 「あらためて見直す, NRT 治療の重要性」
館野 博喜 (さいたま市立病院呼吸器内科)
- 2) 「加熱式たばこと心血管疾患」
森本 達也 (静岡県立大学・静岡県立総合病院)
- 3) 「隠れたうつ状態の患者をいかに見つけて対処するか」
小見山 麻紀 (国立病院機構 京都医療センター)
- 4) 総合討論：「質の高い禁煙治療を困難な中でいかに行うか」
コメンテーター 高橋 裕子 (京都大学大学院医学研究科社会健康医学)

教育講演

13:00-14:00

「タバコ関連呼吸器疾患－COPD を中心に－」

座長：上田 晃子 (上田内科クリニック)

演者：池上 達義 (日本赤十字社和歌山医療センター呼吸器内科)

KKE 分科会

14:00-15:00

「KKE に学ぶ禁煙支援の最新知識」

座長：高橋 裕子（京都大学大学院医学研究科社会健康医学）

演者：館野 博喜（さいたま市立病院 呼吸器内科）

薬剤師分科会

15:00-16:00

「教育現場における（学校）薬剤師の最近の取り組みについて」

座長：笠原 大吾（薬剤師分科会）

演者：田口 真穂（横浜薬科大学 薬学部臨床薬学科

レギュラトリーサイエンス研究室/実務実習センター准教授）

山下 真経（一般社団法人和歌山県薬剤師会 常務理事

禁煙・薬物乱用防止・アンチ・ドーピング委員会委員長）

閉会式・優秀演題賞発表・次期会長挨拶

16:00-16:30

閉会式

中川 利彦（たばこ問題を考える会・和歌山 事務局長 / 弁護士）

優秀演題賞発表

高橋 裕子（京都大学大学院医学研究科社会健康医学）

次期会長挨拶

眞崎 義憲（九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター）

第2会場 5F 大会議室

会員総会

9:30-9:50

座長：高橋 裕子（京都大学大学院医学研究科社会健康医学）

一般演題3

10:50-11:00

座長：佐本 明（元和歌山県健康対策課健康づくり推進班長）

7. 「～児童の事前アンケート 20年の歩み～」

西畑 昌治（和歌山禁煙教育ボランティアの会会長）

教育・小児科分科会

※オンラインはありません※

11:00-12:00

「無煙世代を創り出すためにできること」

座長・演者：野田 隆（のだ小児科医院）

牟田 広実（いいづかこども診療所）

抄録

会長講演

特別講演

厚生労働省講演

教育講演

和歌山セッション

シンポジウム 1 (職域タバコ対策分科会)

シンポジウム 2 (歯科分科会)

シンポジウム 3 (禁煙治療分科会)

会長講演

座長：眞崎 義憲（九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター）

「多職種、多機関連携による禁煙社会の実現」

中川 利彦

たばこ問題を考える会・和歌山 事務局長 弁護士

たばこ問題に関する日本で最初の市民団体は、1977年札幌に誕生した「非喫煙者を守る会」です。会の名称通り、たばこの煙で「非喫煙者の人権が侵害されている事実」を訴え、非喫煙者を擁護することが目的でした。

1978年「嫌煙権」という言葉がマスコミを通じて日本中に広がりました。私もこの新しい権利に衝撃を受け、嫌煙権運動に関わるようになりました。これは、喫煙者に禁煙を求めるものではなく、喫煙の自由を認めた上で、非喫煙者のきれいな空気を吸う権利の実現、公共の場所での喫煙規制を求めるものでした。

和歌山で弁護士になっていた私は、公害教室で著名だった汐見文隆医師に相談し、1987年3月、汐見医師と主婦、元学校長、会社員の4人を代表世話人とする「たばこ問題を考える会・和歌山」を設立しました。汐見医師のお陰で、運動の中心は①禁煙の必要性（たばこの有害性）の啓発、②子どもへの禁煙教育、③喫煙場所の規制、の3本柱になり、取組みが片寄ることがなく、そのいずれについても、行政・関係機関への働きかけと市民への啓発活動に取り組みました。むしろ多職種・多機関の連携が必要でした。

2001年3月、画期的な和歌山県たばこ対策指針が策定されたその年に、喉頭がんで声帯を失った畑中孝之氏が当会に入会され、その後代表世話人として精力的に、禁煙運動、禁煙教育に取り組み、和歌山県の禁煙運動、禁煙教育は更に前進しました。

人々の生活の現場で「禁煙社会」を実現するためには、多職種・多機関連携が必要です。和歌山での禁煙運動の歩みを振り返りつつ、多職種、多機関連携について考えてみたいと思います。

【略歴】

1982年4月弁護士登録（和歌山弁護士会）、1987年3月～たばこ問題を考える会・和歌山 事務局長、2006年5月～日本禁煙科学会理事

特別講演

座長：初山昌平(和歌山県歯科医師会、和歌山県介護支援専門員協会会長)

「アドベンチャーワールドの魅力

～未来につながるジャイアントパンダの子育て～

中谷 有伽

アドベンチャーワールド ジャイアントパンダ飼育スタッフ

1980年、世界中のジャイアントパンダの飼育頭数はわずか99頭。うち、飼育下で繁殖した個体はわずか7頭。1990年には飼育下で繁殖した頭数は27頭に達したが、野生からの導入個体死亡により飼育合計数は増えず100頭前後で推移し、飼育下繁殖及び成育率の向上が急務となった。

アドベンチャーワールドでは1994年9月、中国成都ジャイアントパンダ繁育研究基地より2頭のジャイアントパンダが来園し、世界で初めてとなる中国と海外動物園のジャイアントパンダ長期国際共同繁殖研究がスタートした。父親「永明（えいめい）」と母親「梅梅（めいめい）」・「良浜（らうひん）」の間で、12回の繁殖に成功し、17頭を育成した。そのうち、13頭が中国へと旅立ち、20頭以上の子孫が誕生している。アドベンチャーワールドは、国際共同繁殖研究を行う世界中の施設の中で最も多い繁殖実績を持つ施設となった。

ジャイアントパンダの出生時の体重は平均100～200g。100g以下の赤ちゃんの死亡率は高いとされている。2018年8月14日に体重75gの低体重児「彩浜（さいひん）」が誕生した。アドベンチャーワールドで2018年以前に育成した計15頭（84g～197g）と比べて小さく誕生した。日中双方のスタッフが協力し、赤ちゃん「彩浜」と母親「良浜」の健康管理に努め、育成を成功させることができた。

今回、当園のジャイアントパンダの飼育管理や繁殖研究の取り組みについて、「彩浜」の誕生事例を中心に紹介する。

【略歴】

1995年生まれ。高校生の頃に動物たちの誕生や成長を見守り、一生に寄り添いたいと考え、飼育員を目指す。2015年入社。レストランの店員やウマ・ラクダなどの飼育経験を経て2017年よりジャイアントパンダの飼育を担当。これまで良浜の出産を2回見守り、子育てをサポートしながら、SNSの発信や講演会などに積極的に関わる。

厚生労働省講演

座長：中川 利彦（たばこ問題を考える会・和歌山 事務局長 / 弁護士）

「厚生労働省が進めるたばこ対策」

佐原 康之
前厚生労働省健康局長

2000年に厚生労働省が「健康日本21」を策定、2003年には「健康日本21」を法制化する健康増進法が施行され、2005年にはWHOの「たばこ規制枠組み条約」が発効した。更に、2018年には敷地内禁煙等を法制化した改正健康増進法が成立し、2020年4月より全面施行されている。また、10年ごとに見直しを行う、「健康日本21」は、2022年度に改定が行われ、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目指した「健康日本21（第三次）」が策定された。2023年度は各都道府県等における計画が策定される。

この間の、喫煙率の推移、改正健康増進法に基づく敷地内禁煙等の実施状況等について報告するとともに、たばこ規制枠組み条約に基づく日本のたばこ対策の評価（MPOWER）や、加熱式たばこや電子タバコ等の現状、たばこ税に関する最近の状況などについて述べる。また、各都道府県で本年度に策定する「健康日本21（第三次）」の全体像や喫煙領域における目標値等についても紹介したい。

【略歴】

平成元年金沢大学医学部卒。神奈川県立こども医療センター研修医を経て、平成3年厚生省入省。

入省後、省内各局や、WHO本部（NCD等担当）、和歌山県庁に勤務。令和3年9月より厚労省健康局長。令和5年7月退官。

教育講演

座長：上田晃子（上田内科クリニック）

「タバコ関連呼吸器疾患－COPDを中心に－」

池上 達義

日本赤十字社和歌山医療センター呼吸器内科

2019年の我が国の喫煙関連死亡は19.9万人で全死因の14.2%を占める。死因第一位の悪性新生物のうち肺がんが最多であり、肺炎やCOPDを加えると、タバコ関連死亡のうち呼吸器関連疾患は男性で40%、女性で32%を占めている。

代表的な喫煙関連呼吸器疾患について概説する。肺がんの最大の原因はタバコである。診断後も喫煙を継続すると肺がんの予後は不良となる。禁煙後肺がんリスクは約20年で非喫煙者並に低下する。喫煙は新型コロナ感染症の罹患・重症化リスクを上げるが、加熱式タバコとの併用者（dual user）のリスクが最も高い。また最近罹患後症状（long COVID）のリスクを有意に上昇させることも報告された。COPDは代表的な喫煙関連疾患で、罹患患者数は500万人以上と推定されている。禁煙により呼吸機能の低下速度が鈍化するのみならず数年間はむしろ回復する。一方で、不完全な禁煙では効果が得られない。出生前後のタバコ煙暴露はCOPD発症に関連する。進行期には栄養障害によるサルコペニアからフレイルに至るが、喫煙自体もフレイルの独立因子である。COPDは禁煙により予防可能な疾患であり、早期診断・早期介入が重要である。

タバコは生涯にわたり人の健康に著しい悪影響をもたらす。健康日本21に掲げられた健康寿命の延伸という目標実現のため、ライフコースのあらゆる段階で禁煙介入を行うことが強く望まれる。

【略歴】

平成2年3月 京都大学医学部卒業、京都大学胸部疾患研究所第1内科(現京都大学医学部呼吸器内科) 入局、福井赤十字病院呼吸器科を経て、平成8年7月 日本赤十字社和歌山医療センター呼吸器内科に着任。平成12年3月 禁煙外来開設、平成17年4月呼吸器内科副部長、平成31年4月呼吸器内科部長、令和2年4月 院長補佐、医療安全推進室長。

所属学会：日本内科学会 総合内科専門医、日本呼吸器学会（専門医、指導医）、日本結核・非抗酸菌症学会（結核・抗酸菌症認定医、指導医）、日本呼吸器内視鏡学会（専門医）など。

和歌山セッション

座長：佐本明（元和歌山県健康対策課健康づくり推進班長）

和歌山セッション「多職種・多機関連携による和歌山の禁煙推進」

- 1) 中川利彦²⁾ 池上達義³⁾ 西畑昌治⁴⁾ 奥田恭久⁵⁾ 佐原康之⁶⁾ 佐本 明（座長）
- 1) たばこ問題を考える会・和歌山事務局長
- 2) 日本赤十字社 和歌山医療センター院長補佐・呼吸器内科部長
- 3) 和歌山禁煙教育ボランティアの会会長
- 4) 和歌山工業高等学校教諭
- 5) 元和歌山県健康対策課長、前厚生労働省健康局長
- 6) 元和歌山県健康対策課健康づくり推進班長

喫煙率が過半数を超え、あらゆる場所で喫煙が当たり前だった 1987(S62)年から、たばこ問題に取り組んだのは、たばこ問題を考える会・和歌山だった。

本県は、たばこに重大な影響を受ける「気管・気管支及び肺の悪性新生物」と「心疾患」による死亡率が以前から恒常的に高く、たばこ対策の必要性が特に高かった。

厚生労働省が 2000 年より取り組んだ「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）」、本県でもその地方版の作成とともに、たばこ対策に特化した「たばこ対策指針」が作成され、ここから、多職種・多機関連携による和歌山の禁煙推進が始まる。指針作成の際も多く職種・機関の協力を得た。県でメーリングリストを設置し、禁煙に取り組むあらゆる職種・機関の人たちが情報交換をする場ができた。公立学校や県立医科大学附属病院の敷地内禁煙は、同じ県の組織とは言え、お互い業務に干渉しない慣例の中、その要請を受け入れた当時の両トップの英断による。当時も男性は半数近くが喫煙者であり、どこでも喫煙できるという状況は相変わらずであり、学校敷地内禁煙を実施すれば「業務に支障」と書く新聞まであった。しかし多くのプレスは、良き理解者で地元テレビ局では、禁煙支援 CM まで放映してくれた。教職員も禁煙の成功体験を書いて、県教委が冊子とした。職場では建物内に喫煙コーナーが設置され職場の空気は綺麗になった。これらの喫煙対策成功には、医療者の禁煙支援、医療機関の禁煙外来が重要な鍵となった。やがて、禁煙の輪は、大きくなり、全国の学校や医療機関に広がっていった。こんな中、医療者たちが自主的に小学校での防煙教育を申し出て、現在まで和歌山市内全ての小学校に出前授業を実施してくれている。

このセッションでは、単に経過だけでなく、多職種・多機関の連携の進め方、そのココロについて、他府県の方に何らか参考になるものが提供できたらと考えている。

シンポジウム1（職域タバコ対策分科会）

座長： 淵上 武彦（コニカミノルタ健康保険組合）

「タバコとレセプトに関する分析状況報告（2023年度）」

1) 中島 博 2) 小川 佳政 3) 宮崎 かおり

1) シーイーシー健康保険組合 2) ファイザー健康保険組合 3) TOTO健康保険組合

禁煙推進における医療者の役割の重要性はいうまでもないが、企業や職域における禁煙推進も日本の禁煙推進に大きな役割を有するものである。「保険者機能を推進する会（2023年6月現在会員数110健康保険組合）」の一組織として2012年に発足した「たばこ対策研究会（顧問 高橋裕子医師）」は、多数の健康保険組合が参加し、企業の枠を超えて禁煙推進に資する活動を展開してきた。たばこ対策研究会では、喫煙状況の現状分析、有効なたばこ対策、禁煙推進ツールなど数多くの成果物の創出をおこない、禁煙推進ノウハウを蓄積してきた。これらを活用した様々なパターンの禁煙推進の取り組みの成果は「職域禁煙分科会」の活動として過去の本学術総会にて紹介され、またその一部は「職場のたばこ対策」「職場の女性のたばこ対策」（東京法規出版）にまとめられ報告されている。更に、「職場における“たばこ（喫煙）対策”を考える会」と題して、有識者を招いた独自のシンポジウムを過去6回開催しており、たばこの歴史、最新の情報提供、現状の課題提起、未来に向けた提案など、職域の範囲にとらわれず、社会に向けた活動も積極的に行ってきた。今年度は、本研究会のみならずレセプト分析の専門企業であるIQVIAソリューションズジャパン株式会社との協業により「喫煙とレセプト及び健診結果・問診に関する分析報告」と題して生活習慣・がん医療費・メンタル疾患・妊娠・分娩及び喫煙者の行動パターンなど幅広い関係性を検証した結果を紹介する。

【プログラム】

1. オープニングコメント
2. たばこ対策研究会の活動紹介
3. タバコとレセプトに関する分析状況報告

シンポジウム2（歯科分科会）

座長：王 宝禮（大阪歯科大学）

「歯科領域における禁煙支援の重要性」

王 宝禮¹⁾、玉置敬一²⁾、初山昌平³⁾、岩橋秀記⁴⁾

¹⁾ 大阪歯科大学、²⁾ 玉置歯科医院、³⁾ 初山歯科医院、⁴⁾ 岩崎歯科医院

毎年歯科分科会は本年度はシンポジウムとして、歯科での禁煙支援や喫煙防止教育の現状を伝えるとともに、多職種連携についてさぐる。歯科以外のみなさまの参加を期待する。

基調講演「歯科における禁煙支援の重要性」 王 宝禮（歯科分科会長）

講演(1)「歯科は何をすところ？」 玉置敬一

講演(2)「地域連携・歯科で禁煙！」 初山昌平

講演(3)「歯科からの喫煙防止教育」 岩橋秀記

基調講演では、歯科における禁煙支援の重要性を総論、各論的に解説する。

講演（1）では、長年多角的に禁煙支援に取り組んできた立場から、歯科医師の禁煙支援の役割を伝える。

講演（2）では、地域連携の中で小中学校の教育現場も含め地域包括の禁煙指導体制を確立してきた活動について報告する。

講演（3）では、禁煙教育ボランティアを通じて多職種連携の禁煙教育活動にたずさわってきた内容や成果をお話いただく。

今回の登壇者の先生方は、日々の歯科臨床のみならず、多角的に和歌山で地道な禁煙支援活動を重ねることで地域の健康維持にご貢献してこられた。このあゆみを学び、多職種連携による禁煙推進をさらにさぐる時間としたい。

シンポジウム 3 (治療分科会)

座長：長谷川 浩二 (国立病院機構京都医療センター)

「困難を乗り越えて再認識：禁煙治療の重要性」

- 1) 「あらためて見直す, NRT 治療の重要性」
館野 博喜 (さいたま市立病院呼吸器内科)
- 2) 「加熱式たばこと心血管疾患」
森本 達也 (静岡県立大学・静岡県立総合病院)
- 3) 「隠れたうつ状態の患者をいかに見つけて対処するか」
小見山 麻紀 (国立病院機構 京都医療センター)
- 4) 総合討論：「質の高い禁煙治療を困難な中でいかに行うか」
コメンテーター 高橋 裕子 (京都大学大学院医学研究科社会健康医学)

本邦においては、2006 年から禁煙治療に健康保険が適応されニコチン依存症管理料が算定され、以後、保険診療として禁煙外来を行う施設が全国に普及してきたところです。しかし、2020 年 3 月から新型コロナウイルス感染症パンデミックが起これ、呼気 CO 濃度測定
の感染リスクが指摘されました。加えて、2021 年 6 月、多くの外来で処方されていた禁煙補助薬バレニクリンが、不純物混入から出荷停止、ニコチンパッチも品薄となり、休診に追い込まれた禁煙外来もあります。日本禁煙科学会は 2020 年 4 月にいち早く「新型コロナ感染症パンデミック期における禁煙の重要性について」緊急表明を行いました。より質の高い禁煙外来指導要領を確立するためのエビデンス構築を目的としてきた治療分科会は、まずはカウンセリングをベースとし、全国の禁煙外来を継続していただくことの重要性を訴えて来ました。徐々にニコチンパッチの流通も改善状況にあります。今回の治療分科会では、まず困難な中での禁煙外来継続の大切さに触れ、さらに質の高い禁煙治療を行うため、呼吸器疾患・循環器疾患・人間ドックの専門家で禁煙治療のスペシャリストに 1) あらためて見直す NRT 治療 (ニコチン代替療法) の重要性、2) 加熱式たばこと心血管疾患、3) 隠れうつ状態の患者への対応について、ご講演いただいた後、みなでポストコロナ時代の困難な中でいかに禁煙治療を行ってゆくのかにつき議論を行いたいと思います。是非、禁煙治療に従事されている医療従事者で屈託のない意見を交わしましょう！

抄録(分科会)

健康教育分科会

禁煙マラソン・健康情報の見せ方伝え方分科会

教育・小児科分科会

KKE 分科会

薬剤師分科会

健康教育分科会

座長：須賀 英道(龍谷大学短期大学部)

実践セミナー「ウェルビーイング思考による禁煙支援」

須賀英道

龍谷大学短期大学部

本分科会では、ウェルビーイング思考を実践を通じて取得する。

禁煙領域においては、ウェルビーイング思考は、禁煙の動機づけ（モチベーション）向上に効果的な手法であると考えられてきた。ウェルビーイング思考を用いることで、禁煙に取り組んでいる時の気分の向上や、目標に至った時の達成感の増強等が得られる。

気分が向上することが状況改善や行動変容へのモチベーションにつながり、達成感が次の行動変容を促すといった良いサイクルが形成される。これが禁煙の継続にもつながると目されているところである。

禁煙領域以外でも、ウェルビーイング思考を取り入れることの有効性についての成果が実証されてきた。リスクマネジメントの視点のほか、産業医学の分野でもウェルビーイング思考は着眼されており、就労者の作業効率の向上のみならず、働きがいや作業環境整備にも有効であると考えられている。健康経営戦略の手法として用いられることもある。

ウェルビーイング思考では、どのように過ごすことが、自分の人生・生活の改善につながるのかとのイメージングの必要性に気づくことが重要である。改善につながる方法は1つとは限らない。自己の状況を肯定的に評価することは、主観的な気分の向上、さらに人生における健康意識や幸福感の増大にもつながる。

禁煙マラソン・健康情報の見せ方伝え方分科会

座長：平松 新

「禁煙継続のポイント」

禁煙マラソン卒業生のみなさま

今回の本分科会では、昨年たいへんに好評であった禁煙継続を、引き続いてテーマとしてとりあげる。

禁煙支援の難所のひとつが禁煙継続である。いったん禁煙を開始しても、さまざまな理由で再喫煙が起こり、依存性薬物であるニコチンからの脱却は容易でない。禁煙マラソンはオンライン支援を通じて、禁煙の開始前の動機付けから禁煙実行、さらに生涯禁煙をめざすプログラムであり、多くの長期禁煙継続者を生み出してきた。

2回目となる今回も、長期禁煙継続を成し遂げている禁煙経験者から、喫煙から禁煙へ、さらに長期禁煙継続への道筋を聞く。これにより長期禁煙継続を見通した禁煙支援について学ぶとともに、禁煙支援の中でしばしば遭遇する「たばこが吸えなくなったらどうやって社内情報を得たらいいのか」などの疑問に対しても、長期禁煙継続者の明快な回答から学ぶ。

長期禁煙継続者の経験から私たちの禁煙支援を見直し、再構築する貴重な機会となろう。

<プログラム>

- 1 座長挨拶とオープニングコメント
- 2 禁煙継続者の体験談
- 3 禁煙継続者との質疑応答
- 4 座長総括

教育・小児科分科会

座長：野田 隆 (のだ小児科医院)、牟田 広実 (いいづかこども診療所)

「無煙世代を創り出すためにできること」

野田 隆¹⁾、牟田 広実²⁾

¹⁾ のだ小児科医院、²⁾ いいづかこども診療所

教育・小児科分科会は、子どもたちに最初の 1 本を吸わせない喫煙防止教育と受動喫煙から守ることを中心に活動してきた。これらは、喫煙と無縁な世代を創っていきたいという思いからである。

本年の分科会では、このような無煙世代を創り出すために私たちができることを、「小児」・「教育」をキーワードに、ワークショップ形式で参加者の皆さんと考えていきたい。

プログラム

- 11:00-11:05 はじめに 本分科会のねらいの説明 分科会長 野田 隆
- 11:05-11:10 グループ分け
- 11:10-11:30 グループ作業
- 11:30-11:45 発表
- 11:45-11:55 総合討論

KKE 分科会

座長：高橋 裕子（京都大学大学院医学研究科社会健康医学）

「KKE に学ぶ禁煙支援の最新知識」

舘野 博喜

さいたま市立病院 呼吸器内科

KKE とは、日本禁煙科学会の公式メーリングリストである「禁煙健康ネット（通称 KK）」において、さいたま市立病院禁煙外来舘野博喜医師が最近の禁煙科学に関する医学情報を紹介しているシリーズである。

紹介される医学情報の多くは禁煙に関して非常に重要な英語論文であり、舘野医師による日本語要約のみならず、コメントもあわせ記載され、内容をサマライズして論文の特色が述べられ、日本における情報が追記されることもある。またその他の禁煙支援に関する論文のうち重要なものは、内容を要約して短く紹介されている。

今年の KKE 分科会も、昨年、一昨年に引き続き、過去 1 年間に KKE に紹介された報告の中から、特に日頃の禁煙支援に役立つと思われる報告を選び、舘野医師による解説を加える。KKE の紹介者より直接に説明を受ける貴重な機会である。

薬剤師分科会

座長：笠原 大吾（薬剤師分科会）

「教育現場における（学校）薬剤師の最近の取り組みについて」

田口 真穂¹⁾、 山下 真経²⁾

¹⁾ 横浜薬科大学 薬学部臨床薬学科 レギュラトリーサイエンス研究室/実務実習センター准教授

²⁾ 一般社団法人和歌山県薬剤師会 常務理事 禁煙・薬物乱用防止・アンチ・ドーピング委員会委員長

3年間にわたる新型コロナウイルス感染症による自粛もようやく明けて、対面での学会分科会開催も可能となった。この間、我々薬剤師を取り巻く環境も大きな変化があった。今回は、教育現場における薬剤師職能の一つである薬物乱用防止に関する取り組みを分科会のテーマとした。最近は、喫煙防止を含む薬物乱用防止教室における講演のみならず教育現場におけるさまざまな健康問題に（学校）薬剤師が関わっている事例を通して幅広く薬剤師職能を生かすことができることについて提言する。これによって、本年度の学術総会のメインテーマである「多職種、多機関連携による禁煙社会の実現」にもつながるという希望を持っている。関心のある皆様の参加を歓迎します。

【プログラム】

はじめに

基調講演

「学校薬剤師の行う薬物乱用防止教室 –新型コロナウイルス感染による自粛明けで何が変わったか–」田口真穂（35分）

現地（和歌山県）での事例紹介

「和歌山県薬剤師会における学校での薬物乱用防止教室の取り組みについて」山下真経（10分）

質疑応答・ディスカッション（10分）

まとめ

抄録(一般演題)

一般演題

座長： 山本 康久(西和歌山病院) 9/30(土)13:00 -13:30

1. 「和歌山県那賀地域における喫煙防止教育の有効性に関する検討
～喫煙経験に影響を及ぼす要因について～」
上田晃子（和歌山禁煙教育ボランティアの会、上田内科クリニック）
2. 「愛着が喫煙行動に影響するのか？大学生の質問紙調査による検討」
入谷智子（びわこ成蹊スポーツ大学）
3. 「コロナ以後の二十歳のつどい（旧成人式）におけるタバコアンケートの現状
ーネットアンケートの課題と解決策ー」
遠藤将光（城北病院、禁煙ねット石川）

座長： 野田隆（のだ小児科医院） 9/30(土)13:30 -14:00

4. 「妊婦および育児世代の喫煙に関する保健医療専門職による支援の実際と課題意識：
4名のパイロットインタビューより」
宮崎 有紀子（群馬県立県民健康科学大学看護学部）
5. 「静岡県立総合病院 禁煙外来の取り組み ～開設5年時点での報告～」
川瀬裕斗（静岡県立大学 大学院薬学研究院 分子病態学講座）
6. 「禁煙の成否に影響を及ぼす要因についての検討～当院の禁煙外来の現状と課題～」
上田晃子（上田内科クリニック）

座長： 佐本明（元和歌山県健康対策課健康づくり推進班長） 10/1(日)10:50-11:00

7. 「～児童の事前アンケート 20年の歩み～」
西畑 昌治（和歌山禁煙教育ボランティアの会会長）

1

「和歌山県那賀地域における喫煙防止教育の有効性に関する検討 ～喫煙経験に影響を及ぼす要因について～」

○上田晃子¹⁾ 2)、玉置敬一¹⁾ 3)、西畑昌治¹⁾

1) 和歌山禁煙教育ボランティアの会、2) 上田内科クリニック、3) 玉置歯科医院

【目的】和歌山県那賀地域(岩出市・紀の川市)では2003年から那賀医師会学校医等が小中学校・高校で喫煙防止教育を行っている。喫煙防止教育の有効性と喫煙経験に関連する要因について検討するため、同地域の高校三年生に質問調査を行った。

【方法】2015年度から2022年度の県立高校3校の3年生5352人を対象に質問調査を実施した。

【結果】小学校、中学校、高校において喫煙防止授業を受けたと回答した者はそれぞれ89.9%、96.7%、86.1%であった。喫煙経験者は男7.5% (コロナ前2019年度まで8.8% コロナ後2020年度から5.2%)、女3.6% (コロナ前4.3% コロナ後2.3%) とコロナ前に比べてコロナ後に有意に減少したが、加熱式タバコ経験者は男4.0% (コロナ前3.5% コロナ後4.5%)、女2.0% (コロナ前2.3% コロナ後1.6%) であった。

喫煙防止授業受講と喫煙経験率の関連については、小学校で喫煙防止授業を受講した生徒の喫煙経験者は5%と受講していない生徒(8.0%)に比べて低率であった。中学校で喫煙防止授業を受講した生徒の喫煙経験者は4.9%と受講していない生徒(13.5%)に比べて有意に低率であった。小学校中学年・高学年の両方で喫煙防止授業を実施する和歌山市の小学校出身者は高学年のみで授業を実施する小学校出身者に比べ男子で小学校5年生以後の喫煙経験率が低かった。

喫煙経験に及ぼす要因についての検討では、同居家族で喫煙者がいる、何にでも興味をもつ性格、タバコを肯定する(格好いいなど)イメージなどがあるほうが喫煙経験率が高く、一方タバコのやめにくさや病気の知識(老化、歯周病など)があるほうが喫煙経験率は低率であった。

【考察】小中学校における早期からの喫煙防止教育は喫煙防止に有効であると考えられた。喫煙防止に有効な情報を提供し啓発することで今後の喫煙防止に活かしたい。

○入谷智子¹⁾、東山明子²⁾、高橋裕子³⁾

1) びわこ成蹊スポーツ大学、2) 大阪商業大学、3) 京都大学大学院医学研究科

【緒言・目的】 Bowlby(1969)は愛着を「ある特定の人と他の特定の人との間に形成される愛情の絆である」と述べ、愛着障害とは情緒や対人関係に問題が生じ、社会適応に支障をきたすと示した。喫煙をしている妊婦は、子どもへの愛着が低い傾向があり（山口ら,2010）、安定型ととらわれ型の愛着は依存欲求が高い（寺嶋ら,2014）と報告されるため、愛着とニコチン依存には関連があるのではないかと考えた。そこで本研究では愛着が喫煙行動に影響するのかを検討し、喫煙率減少のために母親への社会的支援や母子関係の愛着の影響を示す基礎資料とすることを目的とする。

【方法】 岡田（2013）の愛着スタイル診断テストを用いて Google form を利用した質問紙調査を行った。対象者は大学生 217 名（男性 166 名、女性 47 名、無記名 4 名）である。分析方法は、愛着スタイル診断テストのそれぞれの項目と本人の喫煙と両親の喫煙の有無を χ^2 検定で分析し、安定型・不安定型・回避型・未解決型愛着スコアの得点と本人の喫煙と両親の喫煙の有無を Kruskal Wallis 検定で分析した。

【結果】 大学生の喫煙あり 5 名、過去喫煙 14 名、喫煙なし 193 名、両親どちらかの喫煙は、喫煙あり 76 名、過去喫煙 52 名、喫煙なし 84 名であった。

両親の喫煙の有無と愛着に関するすべての項目や愛着スコアには有意差は見られなかった。一方で大学生本人では、回避的愛着スコア ($p=0.012$) や「あなたは親（養育者）から、よく傷つけられるようなことをされましたか($p=0.004$)」「いつも冷静でクールな方ですか。($P=0.041$)」「関わりのあった人と別れても、すぐ忘れる方ですか。($p=0.008$)」で喫煙の有無に有意差が見られた。

【考察】 本研究では両親の喫煙と大学生本人の愛着に関して関連はみられなかった。大学生の非喫煙者に比べ喫煙者本人は親（擁護者）から傷つけられた割合が有意に高く、愛着に回避的で親密な人間関係を避ける傾向にあったため、両親の幼少からの養育が将来の喫煙に全く影響されないとは言い切れないことが示唆された。

○遠藤將光^{1,2)}、福田太睦²⁾、吉田健治²⁾、横山明美²⁾、池田美智子^{2,3)}、高橋裕子^{2,4)}

1) 城北病院、2) 禁煙ねっと石川、3) 公立小松大学、4) 日本禁煙科学会

【目的】我々は2000年から小学6年生に喫煙防止教育を行い、20歳になった時点で喫煙率を低下させ得るかを検証する為、2010年から成人式で喫煙アンケートを実施し成果を上げて来た。しかし、コロナ以降対面でのアンケートができず、インターネットでの調査を試みてきた。今回はその結果から今後の課題と対策を検討した。

【方法】2022年から従来と同様の金沢市内14公民館、7会場での二十歳のつどいでインターネットアンケートを行った。QRコード付きのアンケート用紙を公民館に送り、会場で他の配布資料と一緒に封筒に入れ対象者に渡し、式典後各自QRコードを読み取り回答してもらった。又、翌年には、式典後各公民館に可能な範囲で電話による再度の回答依頼をお願いした。

【結果】2022年1月は931名の出席者の内回答は18名（女6、男12）、回答率1.9%で全員非喫煙者だった。翌年は684名の出席者中77名（女39、男38）から回答があり回答率11.3%だった。

【考察】コロナ前は会場内で直接対象者にアンケートを依頼できたので、回答率は毎年80%前後と良好だった。しかし、ネットアンケートでは2022年は1.9%と極めて低かった。今年は11.3%と若干改善したが喫煙率を論ずるレベルではない。また、公民館が式典後可能な範囲で電話してくれた為多少なりとも上昇したと考えられる。二十歳のつどいではタバコアンケート以外にも多数の書類があり、これらをまとめて封筒に入れて渡しても、回答する対象者はほとんどいないと想像できる。今後は式典の開始前10分ほどの時間を頂き、会場で回答してもらえよう公民館と交渉する予定である。

【結語】2022年から二十歳のつどいでネットアンケートを行ったが、回答率は極めて低かった。今後は式典開始前の時間を頂き、会場で回答してもらえよう交渉する予定である。20歳で喫煙アンケートを行うと、改めて喫煙の害を認知する機会となりその後の喫煙を防止する可能性が高く、今後も継続したいと考えている。

○宮崎 有紀子¹⁾、丸 光恵²⁾

¹⁾ 群馬県立県民健康科学大学看護学部、²⁾ 兵庫県立大学看護学部

【目的】

妊婦や育児世代に対する禁煙支援では、認知行動療法、教育的介入、カウンセリング等が行われているが、指導者側の認識や支援の実際、課題としてとらえているものについて明らかにしている研究はほとんどない。本研究では専門職による妊婦・育児世代への禁煙支援への実際や課題意識を明らかにすることを目的とした。

【方法】

便宜的サンプリングにより、内諾の得られた対象者へプレアンケートと説明書・同意書・同意撤回書を送付し、同意の得られた対象者に30～60分程度のインタビューを2023年5月に実施した。インタビューは録音し、逐語録を作成し、内容を分析した。対象者は小児科医2名、助産師2名であった。

【結果】

対象者の把握方法は問診票の項目、臭い等が挙げられた。妊婦に対する指導では「妊娠したら吸わない」、育児世代に対しては「少なくとも子どもの前では吸わない」等を伝えていた。対象者へのアプローチ方法では、指示的・強制的にならない指導の工夫として、「妊婦自身がどのように考えているかを聞く」「逃げ場を作る」「具体的に止める方法を一緒に考える」等が挙げられた。また「その人が求める利益を探る」「本人のモチベーションを下げない」「ほめる」ことを意識していた。

課題としては、禁煙支援の質向上、組織内外における連携の2つが挙げられた。

【考察】

保健医療専門職は対象者に合わせた様々な支援方法を工夫していた。一方で専門職自身の課題意識や熱意によってリスクのある人への支援の質が異なる可能性が考えられた。支援対象者を把握しやすいシステム、取り組みやすい系統的・組織的な支援プログラムが必要であることが示唆された。

本研究はJSPS 科研費(22K11234)の一部として行われた。

○川瀬裕斗¹⁾、松永安奈²⁾、杉山典子²⁾、羽川菜摘¹⁾、鳴田竜也¹⁾、浜辺俊秀¹⁾、刀坂泰史¹⁾、砂川陽一¹⁾、森本達也^{1,2)}

¹⁾静岡県立大学 大学院薬学研究院 分子病態学講座

²⁾静岡県立総合病院 禁煙外来

【背景】喫煙は心不全、冠動脈疾患などの循環器疾患の重大なリスクファクターであり、喫煙が原因の国内年間死亡者数は2019年時点で20万人強となっており、禁煙を行うことが唯一の改善方法である。我が国の2019年時点での喫煙率は、男性で27.1%、女性で7.6%であり他先進国と比べ依然高い喫煙率である。静岡県立総合病院では禁煙外来を2018年度4月より開始した。この5年間の受診状況についての報告を行う。

【方法】静岡県立総合病院 禁煙外来の2018年4月から2023年6月までの約5年間について、禁煙外来受診状況及び禁煙成功率を調査した。また、禁煙成功群の禁煙前後の各種検査項目、禁煙成功群と禁煙失敗群の初回受診時の各種検査項目をt検定で比較解析した。

【結果】受診者は52名(男性35名、女性17名)であり、35名(男性25名、女性10名)が禁煙に成功した(禁煙率67.3%)。ブリンクマン指数の平均は禁煙成功群では773.5であり、禁煙失敗群では874.6であった。初診時のSDSスコアの平均は禁煙成功群で37.4、禁煙失敗群では40.3であった。COの平均は禁煙成功群で初診時6.5 L/min、禁煙失敗群で初診時11.6 L/minであった。チャンピックス服用での禁煙成功率は69.6%(23名中16名が成功)、ニコチンパッチ服用での禁煙成功率は70.8%(24名中17名が成功)であり、非薬物治療では66.7%(3名中2名が成功)であった。禁煙により全身の炎症のバイオマーカーであるCRPの平均値が0.42 mg/dlから0.16 mg/dlへと大幅に減少した。また、禁煙失敗群では初診時のCRPの平均値が0.86 mg/dlであり、禁煙成功群の初診時のCRPの2倍以上であった。

【考察】禁煙により全身性の炎症が低減したことから、動脈硬化に起因する様々な心血管疾患を予防することができる可能性が示唆された。今後さらに症例を集めていくことで、受診者の背景に応じた禁煙治療を行うことも検討していきたい。

○上田晃子¹⁾、迫間欣子¹⁾、松川美幸¹⁾、木村恵子¹⁾、西千佳子¹⁾、西矢眞裕美¹⁾

¹⁾ 上田内科クリニック

【目的】当院では2002年開院以来禁煙支援を行っている。当院禁煙外来の現状から成功要因を明らかにし、より有効な禁煙支援を行うことを目的に検討を行った。

【方法】2016年3月から2023年3月までに当院禁煙外来で禁煙治療を行った425名を対象に既往歴、家族歴、Brinkman Index (BI)、TDSニコチン依存度、過去の禁煙、家族内喫煙者の状況、呼気CO濃度、自己評価式抑うつ尺度(SDS)、禁煙補助薬の種類と副作用などと3か月後、1年後の禁煙継続との関連について検討した。統計解析にはt検定、 χ^2 検定を用いた。

【結果】3か月後の成功率は66.4%(男性67.1%、女性64.5%)、コロナ前65.2%、コロナ後(2020年2月以降)69.7%、29歳以下30.6%、30～59歳64.3%、60歳以上84.5%、バレニクリン66.1%、ニコチンパッチ67.4%であった。禁煙外来を5回以上受診して禁煙を継続している者を3か月後成功としたが、受診回数は4回以下だが最終受診時禁煙していた者は88.9%(男性90.4%、女性85.1%)であった。1年後成功率(5回受診し卒業した方に葉書または電話で確認)は、総数の47.3%(男性49.0%、女性42.7%)であったが、禁煙外来を5回受診した者の1年後成功率は74.8%であった。5回受診した者の割合は29歳以下22.2%、30～59歳57.5%、60歳以上79.4%であった。1年後成功率と有意に関連した要因は受診回数、医療費公費負担の有無、精神科受診歴、BI、SDSなどであった。1年後成功率と禁煙補助薬の種類、薬剤副作用の有無、自覚症状の有無等との関連は認めなかった。

【考察】若年者、BI、SDSの高い者では受診回数が少なく、1年後成功率が低率であり、若年者、うつ状態の方に次回受診を促す支援が特に必要と考えられた。

○西畑昌治¹⁾

1) 和歌山禁煙教育ボランティアの会 会長

2003年8月、和歌山禁煙教育ボランティアの会を結成以来、20年間に亘り、会員17名（医師、歯科医師、薬剤師、喉頭摘出者等）で、和歌山市内の全小学校50校において、喫煙防止の出前授業やタバコに関するアンケート調査を実施してきた。アンケート件数は、年度により違いはあるが、年間1000件前後から3500件を越えるものを確保できた。

今回、統計処理を実施し若干の知見を得たので報告する。

- ・喫煙がとても健康に悪いことは9割前後の子どもが知っている。
- ・依存性をよく知っている子どもは7割前後となっている。
- ・家族の喫煙者数が多い程、将来も絶対に喫煙しないと思う子どもが有意に減少し、将来喫煙するかもしれないと思う子どもが有意に増加する。
- ・年々、家庭での子どもの受動喫煙が有意に減少している。
- ・受動喫煙に悩んでいる子どもは将来絶対喫煙しないと思う割合が有意に高い。
- ・受動喫煙を受けていても気にならない子どもは将来喫煙するかもしれないと思う傾向が有意にある。

予想される結果ではあるが、年々受動喫煙が減少していることは好ましい結果である。家庭内で喫煙者が多いほど将来喫煙する可能性のある児童が増えることが判明し、家庭内での喫煙者数を無くすこと、あるいは少なくとも減少させることが重要と言える。

加熱式タバコについては今回のアンケートには含まれていないので、来年度からの事前アンケートに設問を加えることを検討している。

日本禁煙科学会 役員

理事長

高橋裕子 京都大学大学院医学研究科 特任教授

副理事長

中山健夫 京都大学大学院医学研究科 教授

中村清稲 長安会中村病院 院長

野田隆 のだ小児科医院 院長

東山明子 大阪商業大学公共学部 教授

理事

佐本 明 社会福祉法人ヨハネ会 理事長

富永典子 エア・ウォーター健康保険組合 保健師

中川利彦 弁護士 たばこ問題を考える会わかやま事務局長

監事

丹羽劭昭 奈良女子大学文学部 名誉教授

菅野 進

日本禁煙科学会 会則

第1章 総 則

第1条 (名称)

本会は日本禁煙科学会という。

2. 本会の英文名は、The Japanese Association of Smoking Control Science (JASCS) とする。

第2条 (本部)

本会は事務局を理事会で定める場所におく。

第3条 (支部)

本会は、理事会の議決を経て、必要な地に支部をおくことができる。

第2章 目的及び事業

第4条 (目的)

本会は、禁煙及びこれに関連する諸分野の学術的研究の発達を図ることを目的とする。

第5条 (事業)

本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 禁煙に関する学術的研究や調査の奨励および業績の表彰
- (2) 学術総会、研究会、講習会などの開催と人材育成
- (3) 学会誌、ニュースレター、その他の出版物またはホームページ、その他の電子出版物の刊行およびそれらの知的所有権の保持
- (4) 禁煙啓発、禁煙支援、喫煙防止教育などの禁煙普及活動
- (5) 内外の関連学術諸団体、公的機関などとの関係および協力
- (6) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

第6条 (会員)

本会の会員は、次の通りとする。

- (1) 正会員 本会の目的に賛同して入会した個人
- (2) 学生会員 本会の目的に賛同して入会した学生および生徒
- (3) 団体会員 本会の目的に賛同して本会に協賛する団体および企業

第7条 (入会)

前条の会員として本会に入会を希望する者は、当該年度の会費および入会費を添えて所定の入会手続きをとらなければならない。

第8条 (会員の権利)

本会の会員は、本会の行事に参加することができる。

第9条（会費）

会員は毎年3月末日までに、その年度の会費を納入しなければならない。

2. 既納の会費は返還しない。

第10条（退会）

本会の退会を希望する者は、所定の退会届を事務局に提出する。また本人が死亡し、又は会員たる法人が解散したときは退会したものとする。

第11条（除名）

本会の名誉を汚した者、会則や本会の目的に反する行為があった者または特別な理由なく引き続き2年以上会費を納入せぬ者は理事会の決議を経て除名することができる。

第4章 役員および事務局

第12条（役員）

本会には、次の役員をおく。

理事長…1名

副理事長…若干名

理事…6名以上30名以内

学術総会会長…1名

監事…2名

第13条（理事長）

理事長は、本会を代表し、会務を総理する。

2. 理事長は理事の互選によって選出する。

3. 理事長の任期は3年とし、重任を妨げない。

第14条（副理事長）

副理事長は、理事長の会務を補佐する。

2. 副理事長は理事の中から理事長が指名する。

3. 理事長に事故のある場合、又は理事長が欠員となった場合は、理事長が予め指名した順序によって副理事長が理事長職務を代行する。

4. 副理事長の任期は3年とし、重任を妨げない。

第15条（理事）

理事は、理事会を組織し、会則及び総会の議決により会務を執行する。

2. 理事は、理事会が正会員の中から推薦し、総会の議決を経て選出する。但し理事長が必要と判断した場合は、理事長推薦理事を指名することができる。

3. 理事の任期は3年とし、重任を妨げない。

4. 理事が任期途中でやむを得ず辞任する場合は、理事長が後任理事を指名し、理事会の議決を経て就任させることができる。

第16条（学術総会会長）

学術総会会長は学術総会の開催を執行する。

2. 学術総会会長は理事会で選出する。
3. 学術総会会長の任期は担当する学術総会終了までとする。

第17条（監事）

監事は、本会の業務および会計を監査し、総会において監査結果を報告する。

2. 監事および監事補欠は理事会において推薦し、会員総会で承認を受ける。
3. 監事は本会の財務を監査するため、理事会他の会議に出席できるが議決には加わらない。
4. 監事の任期は5年とし、重任を妨げない。
5. 監事が任期途中で辞任した場合、監事補欠の中から理事長が指名して選出する。

第18条（解任）

役員が次の各号の一に該当するときは、理事会の在籍理事数の4分の3以上の議決によりこれを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため、職務の執行に堪えられないと認められるとき
- (2) 業務上の義務違反、その他役員たるにふさわしくない行為があると認められるとき、または本会の目的に反する行為のあったとき

第19条（役員の報酬）

役員は無報酬とする。但し、会務のために要した費用は支弁することができる。

第20条（会務理事）

理事長は、必要な場合、会務の一部を担当する会務理事を委嘱することができる。

2. 会務理事は、理事会の議決を経て有給とすることができる。

第21条（事務局）

事務局は、本会の事務を処理する。

2. 事務局には、事務局長および必要に応じて職員をおく。
3. 理事長は事務局長および職員を、理事会の決議を経て有給にて雇用することができる。
4. 前条の有給の会務理事および事務局、職員の雇用条件及び雇用に関する諸規則は必要に応じて理事長が別途定める。

第22条（事務局長）

事務局長は理事長の命を受け、本会の事務を監理する。

第5章 評議員および顧問

第23条（評議員）

理事長は理事会の同意を経て評議員を委嘱することができる。

2. 評議員の任期は3年とし、重任を妨げない。

第24条（評議員会）

評議員は評議員会を組織する。

2. 評議員会は、理事長の諮問に応じて本会の重要事項に関して必要な諸活動を行う。

第25条（顧問等）

理事長は理事会の同意を経て顧問、特別顧問を委嘱することができる。

2. 顧問の任期は2年とし、重任を妨げない。特別顧問の任期は定めない。

3. 理事長は理事会の同意を経て名誉理事長、名誉会員を委嘱することができる。

第6章 会 議

第26条（会議）

本会の会議は、会員総会と理事会とする。

第27条（理事会の招集）

理事会は毎年1回以上開催するものとし、理事長がこれを召集する。

2. 在籍理事の3分の2以上が理事会の付すべき議題を示し招集を要請する場合は、理事長は90日以内に理事会を開催しなければならない。

3. 理事会は、定められたメーリングリスト宛ての電子メールによって議決を行うことができる。

第28条（理事会）

理事会は、会務の執行について議決を行う。

2. 理事会の議長は理事長とする。

3. 理事会は委任状を含み在籍理事の過半数の出席をもって成立する。

4. 理事会の議事は会則に定められる事項を除き、出席理事の過半数の賛同をもって議決する。但し賛成反対同数の場合は議長の判断で議決とする。

5. 理事会が電子メールによる議決を行う場合、理事の過半数の賛成をもって議決する。但し賛成反対同数の場合は理事長の判断で議決とする。

第29条（総会）

本会の会員総会は通常会員総会と臨時会員総会よりなる。

第30条（招集）

通常会員総会は毎年1回以上開催するものとし、理事長がこれを召集する。

2. 在籍会員数の5分の1以上が会議に付議すべき事項を示し請求があった場合は、請求のあった日から90日以内に臨時会員総会を招集しなければならない。

3. 理事長は開催7日以前に、その会議に付議すべき事項、日時及び場所を記載した書面をもって会員に会員総会開催を通知する。通知は電子メールや郵送による。

第31条（会員総会議長）

会員総会の議長は出席した正会員の中から理事長が指名する。

第32条（議決）

会員総会の議事は会則に定められる事項を除き、出席した正会員の過半数の賛同をもって議決する。但し賛成反対同数の場合は議長の判断で議決とする。

2. 総会では次の報告事項およびその他議題に付す事項を議決する。

(1) 事業計画および収支予算についての事項

(2) 事業報告および収支決算についての事項

(3) その他理事会において報告が必要と認められた事項

第33条 (議決の通知)

会員総会の議決は会員に公開する。

第34条 (議事録)

会員総会の議事録は議長が作成し、議長及び議長の指名した議事録署名人 2 名が署名捺印の上これを保存する。

第7章 学術総会

第35条 (学術総会)

学術総会は年1回以上、学術総会会長が理事会の決議を受け開催する。

第8章 事業組織

第36条 (地方部会)

本会の事業の円滑な実施を確保するため理事長は理事会の同意を得て、地方部会を設けることができる。

第37条 (委員会、研究会、分科会)

本会の目的達成のため理事長は理事会の同意を得て事業組織として、委員会、研究会、分科会を設けることができる。

第9章 財産および会計

第38条 (財産)

本会の財産は理事長が管理し、その方法は、会員総会及び理事会の決するところに従う。

第39条 (予算)

本会の事業計画およびそれに伴う収支予算は毎年度開始前に理事長が編成し、会員総会の承認を受けなければならない。

2. 事業年度開始前に予算が成立しない場合理事長は、予算成立の日まで前年度に準じ収入、支出をすることができる。

3. 事業計画および収支予算を変更した場合は会員総会の承認を受けなければならない。

第40条 (決算)

本会の収支決算は、毎会計年度終了後に理事長が作成し、監事の意見をつけ、会員総会の承認を受けなければならない。

第41条 (会計年度)

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

第10章 会則の変更ならびに解散

第42条 (会則の変更)

この会則は、理事会および総会において、各々の出席正会員の4分の3以上の決議により変更できる。

第43条 (解散)

本会の解散は、理事会および総会において、各々出席正会員の4分の3以上の議決を経

なければならない。

第44条（残余財産）

本会の解散に伴う残余財産は、理事会および総会の議決を経て、本会の目的に類似の目的を有する公益事業に寄付するものとする。

第11章 細 則

第45条（細則）

この会則の施行に必要な細則は、理事会の議を経て理事長が別に定める

2. 本会則または別途定める細則のない事項については、その都度、理事長の決定による。

附 則

1. 本会則は、平成18年5月27日制定し、平成19年6月17日第1回改定、平成21年10月25日第2回改定、平成26年10月26日第3回改定、平成28年10月30日第4回改定して即日実施する。

2. 本会設立当初の役員は別表通りとし、その任期は平成22年12月31日までとする。

3. 本会設立当時の会費は次の通りとする。

（1）正会員 入会金 5,000円 年会費 5,000円

（2）学生会員 入会金・年会費ともに無料

（3）団体会員 入会金 10,000円 年会費 10,000円

4. 本会の事務局は下記に設置する。

〒630-8113 奈良県奈良市法蓮町 948-4

めぐみクリニック（未成年者禁煙支援センター）内

5. 別に定める細則他

（1）入会・退会規則

（2）その他理事長が必要と認めるもの

協力団体・企業一覧

後援：

和歌山県
和歌山市
和歌山県教育委員会
和歌山市教育委員会
和歌山県医師会
一般社団法人和歌山県薬剤師会
一般社団法人和歌山県歯科医師会
公益社団法人和歌山県看護協会

協賛企業：

原田産業株式会社

謝辞：

第18回日本禁煙科学会学術総会開催にあたり、上記団体・企業の皆さまから多大なるご支援・ご協力を賜りました。ここに謹んで感謝の意を表します。

第18回日本禁煙科学会学術総会委員会 会長 中川利彦

第 18 回日本禁煙科学会学術総会 in 和歌山 実行委員会

会長：中川 利彦 たばこ問題を考える会・和歌山事務局長/弁護士

委員：第 18 回日本禁煙科学会学術総会 in 和歌山 応援隊のみなさま

事務局：日本禁煙科学会 事務局

学術総会本部：大阪商業大学 東山明子研究室

〒577-8505 東大阪市御厨栄町 4-1-10

**第 18 回日本禁煙科学会学術総会 in 和歌山
プログラム・抄録集**

発 行 2023 年 9 月
作 成 日本禁煙科学会事務局
連絡先 大阪商業大学 東山明子研究室
〒577-8505 東大阪市御厨栄町 4-1-10
TEL 06-6785-6205

piCO™ Advance Smokerlyzer®

～よりシンプル、より効果的な診療を目指して～

呼気中一酸化炭素 (CO)
を手軽に測定

タッチパネル採用
よりシンプル&直観的に

感染症防止に配慮した
安心の製品設計



- ▶ 製品名 : ピコアドバンススモーカーライザー
- ▶ 製品コード: 03050-310
- ▶ 梱包内容: 本体 1台、Dピース 1本、ステリブレスマウスピース 25本、単三アルカリ乾電池 3本

- ▶ 承認番号: 23000BZX00308000
- ▶ 薬事販売名: piCOスモーカーライザー
- ▶ 希望小売価格: ¥130,000 (税抜)
- ▶ 一般的名称: 一酸化炭素ガス分析装置
- ▶ クラス分類: 管理医療機器 (特定保守)

※センサー精度の保持のため、必ず1年に1度メンテナンスを製造元へご依頼いただきますようお願いいたします。

JASCS

日本禁煙科学会

<https://www.jascs.jp/>